

第 1 回第 3 期中間市地域福祉計画・
中間市地域活動計画策定委員会
(書面審議) 結果報告

1 書面審議について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第1回第3期中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会は書面審議といたしました。このことに伴い、事務局において、委員の皆様からのご意見等を取りまとめましたのでご報告いたします。

2 開催日

令和4年8月4日（木）から令和4年8月19日（金）まで

3 出席者状況（※書面審議回答者、順不同）

委員	鬼崎 信好
委員	中尾 淳子
委員	池田 久紀
委員	森本 邦枝
委員	船津 革
委員	河島 隆士
委員	外城 順子
委員	戸畑 典子
委員	藤澤 冬美
委員	鶴戸 正晴
委員	小林 哲治
委員	高橋 寿子
委員	大野木 章

4 委員長、副委員長の選出について

【協議事項】委員長選出について、事務局の腹案を提案することについて

《承認の可否》

承認状況：委員 14 名中（承認する 13 名、承認しない 0 名、未回答 1 名）

結 果：承認されました

【協議事項】委員長の選出について（久留米大学教授 鬼崎信好 様）

《承認の可否》

承認状況：委員 13 名中（承認する 12 名、承認しない 0 名、未回答 1 名）

※鬼崎信好委員は除きます。

結 果：承認されました

※中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱（以下「要綱」という。）第5条第1項の規定により、「委員長は、委員の互選により選出を行い、副委員長は、委員長が指名する。」となっております。

その結果、副委員長は、鬼崎委員長の指名により、福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所の戸畑典子委員となりました。

5 議 事

(1) 第3期計画の策定について

(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	①社会福祉協議会の地域福祉活動計画と市の地域福祉計画とを合わせた計画は適切と思いますが、より地域住民（市民）の参画を促進するためには、社会福祉協議会職員のアウトリーチ（地域へ出向き組織化を図る）が重要です。②社会福祉協議会の活性化が重要と考えます。	中間市社会福祉協議会では、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロン、障がい者相談支援（ひきこもり支援を含む）や困窮者支援等の事業を通じてアウトリーチ活動を実施しています。社会福祉協議会の特徴は、地域社会で解決すべき生活課題を早期に見つけ出し、地域住民との協働により解決するための方策を考えていこうとする組織であることです。アウトリーチ活動等により発見された地域の生活課題を、住民が主体となって、関係機関・団体との相互協力により解決していくために、地域組織化活動という理念は不可欠であると考えます。また、その理念の実現のための活動を促進することが社会福祉協議会の活性化につながると考えます。
B 委員	地域でどのような福祉活動があるのか実態がよくわからず、関わり方、協力の方法等詳しくわかればと思います。	社会福祉協議会や市の広報誌、地域の回覧板等により周知する等、情報を提供する手段を考え、団体活動支援を行う必要があると思います。
C 委員	報告事項の冒頭に「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」が社会福祉法上、その策定主体が違っているように見えます。しかし、中間市では、両計画を「まとめて策定」とあります。そのことについて法的根拠を教えてください。	法的根拠はありませんが、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画は、住民等の福祉活動計画として地域福祉の推進するために連携・協働するものとして位置付けられており、地域福祉計画と密接な関係があります。令和3年4月1日の全国市

委員名	ご意見・ご質問	回 答
C 委員		町村調査では、地域福祉計画と地域福祉活動計画とを「一体的に策定している」「課題把握、ニーズ調査は一体的に行っている」「連動させて策定している」のいずれか 1 つを回答した市町村は 80.1% となっております。
D 委員	「資料として作成して終わる」ということがないように計画の内容を実行してきたいと思えます。	計画策定後も、中間評価を実施することにより、進捗状況の確認や、振り返りを行い、社会状況に合った柔軟な活動ができるように計画を実行していきたいと考えています。
E 委員	初めて参加させていただきます。これから色々と勉強させていただきます。	計画策定にあたり、各委員の様々な視点から、ご意見を拝聴させていただきたいと思えます。
F 委員	社会福祉法改正に伴い、国が重層的支援体制整備事業を行う自治体に補助金を出すようにしていますが、中間市は今後取り組む予定ですか。それぞれの窓口で対応して解決できる事例以外の相談で、例えば、引きこもり、ゴミ屋敷等今までの単独窓口では課題解決できない事例に対して複合的に地域生活課題の解決を支援する体制づくりや、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制整備事業の実施等をどのように考えていますか。 新規事業名 ・ 多機関協働事業 ・ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 ・ 参加支援事業	重層的支援体制整備事業、包括的支援体制整備事業及び新規事業につきましては、現在検討中の段階です。今後は、他の市町村の実施状況を踏まえ、本市で実施することのメリット・デメリット、総合的な窓口の設置の有無について関係各課との協議・調整等を行いながら、検討していく予定です。アウトリーチ等を通じた継続的支援等の新規事業につきましては、生活困窮自立支援事業を実施している市民生活相談センターや、総合相談に係る訪問支援を実施している地域包括支援センター、乳児家庭全戸訪問等事業を実施している保健センター等があります。

委員名	ご意見・ご質問	回 答
G 委員	行政とは私も長く付き合っていますが、何かと市民協働と言うものの都合の良いときの言葉だけで、実行されたのを感じたことはありません。今後実行されることを期待しています。	行政と地域住民とが連携して実施すべきことは、行政も協力して必要があると思います。行政としてすべきことを改めて考えていこうと思います。関係課である安全安心まちづくり課にも情報提供いたします。
H 委員	私の住んでいるところは高齢者が多い地域です。このコロナ禍で気力、体力を落とした人が多くなっています。町内会の活動、サークル、校区まちづくり協議会の行事が中止され、外出が減り、運動、笑顔、おしゃれ、情報支援が少なくなりました。協働型社会の実施に向けて、地域コミュニティ活性化ができる努力をしていこうと思っています。	新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で、地域の方が集まる機会も非常に少なくなっております。その中で地域の繋がりが途切れないよう、できる範囲で活動を行っていったらと思います。関係課である安全安心まちづくり課にも情報提供いたします。

(2) 令和3年度における実施事項について

ア 地域福祉に関する市民アンケート調査について【資料2】

(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	自治会を辞めてしまう人が多く、特に最近ではコロナ禍で地域行事もなく自治会の存在自体の必要性を感じない人が多く、また組長が回ってくることも負担のようです。高齢の人は組長を免除としますと 2,3 年に 1 回組長をすることになり、ある組では、以前 26 世帯あった地域も現在は 12 軒となり次の組長の選出も大変難しいのが現状です。	核家族化、共働き、高齢化などにより自治会活動に参加する方が減ってきています。各自治会でも活動のあり方などを工夫するとともに加入率向上に向け、チラシ配布などをしております。しかし、現在のところ加入率向上には至っていない現状です。今後は、「自治会が行うべきこと」「市が行うべきこと」「自治会と市が協力して行うべきこと」に分けて課題を整理し、それぞれの役割を果たすことで、加入率の維持、向上を図って参ります。
B 委員	第2期の計画策定前も今回と同様意識調査を行ったと思います。①質問事項に大きな変更点があったか②回答結果に大きな変化があったものがあるのか③問11、問12:「緊急時の手助け」、「安否確認の声かけ」など、ポイントが高いが、行政としてのフォローアップをどのように考えているのか、また「安否確認」については、市として早くから「独居高齢者」の見守り活動を行っているが、現在の実態はどうなのか、成果と課題について教えてください。 地域福祉の核となるべき、社会福祉協議会や民生委員児童委員の認知度が思ったより低いと思いました。その他相談機関も含め認知度を高めるための取組みを行政としてどう考えているのか教えてください。	①再犯防止に関する質問事項を新たに追加しております。 ②「自分や家族が日常生活で不自由になったときの地域からの必要な手助け」や、「地域の人たちが協力して取り組む必要のあること」が、前回の調査時は「高齢者支援」に関することが1位でしたが、今回は「災害等緊急時の支援」が1位でした。 ③(1)ひとり暮らし高齢者見守りネットワーク事業(63 地域中 62 地域が登録)や(2)配食サービス事業(令和4年8月:利用者 78 名、配食数 864 個)を実施しています。課題として、 (1)見守り隊員の高齢化(2)アレルギーがある利用者への対応方法があります。

委員名	ご意見・ご質問	回 答
B 委員		社会福祉協議会は、他の地域団体の会合に出席しております。 また、民生委員児童委員は、自己紹介カードを作成して地域住民の方に配布することで、地域住民の方に覚えていただく取り組みをしております。 今後、広報誌やホームページ等を利用した活動の紹介ができればと考えております。
C 委員	VIII 自由回答の内容を大切に、これからの活動に活かしていきたいと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。計画に反映して行きたいと考えております。
D 委員	資料をまとめるのは大変な作業だったと思います。中間市民の個々の意見が聞けて良いと思います。その要望をまとめ、実行していくのも大変な作業です。	
E 委員	・P9 Q8 地域生活について 20～29 歳の 60.4%がほとんどもしくは全く付き合っていないは、学生や家庭生活に入っている方が少ないなどの生活スタイルの違いからだろうかと考えますが、50～59 歳の部分が 40～49 歳より率が少なくなっています。定年前の 10 年前がその後の地域でのコミュニケーションの準備時期かとも考えますので、60 歳になる前に何か近所づきあいができると良いのでは、と考えます。 ・P19 の Q12「あなたが住まいの地域の暮らしやすさ（満足度）はいかがですか。」の質問に対して「わからない」の回答が多いのが ③地域の福祉・ボランティア活動 38.8% ⑦地域の防災体制 32.1% ⑧地域の防犯体制 32.1% わからないことは不安を増加させます。特に防災と防犯はその身が降りかかると、長期にわたり生活が変わります。資料 3 の事業所アンケート P18～P19にも避難訓練を地域住民と一緒に実施したい、避難訓練の参加を協力	各校区まちづくり協議会や自治会では避難訓練やボランティア活動など様々な行事を実施しており、このような地域行事に参加することで地域のことを知る機会となり、また、地域住民との繋がりができることとなります。ただ、地域の行事や活動に参加しない方に対してどのように参加していただけるか、地域でチラシを配布する等工夫していますが、中々難しいのが現状だと思います。事業所も含めて地域の方に自分たちのことを色々と知っていただくために情報を発信する方法を考えることが必要だと考えます。関係課である安全安心まちづくり課にも情報提供いたします。

委員名	ご意見・ご質問	回 答
E 委員	していただきたいという意見もありました。地域の防災や防犯の体制等の情報提供ができる機会があれば良いと考えます。体制や情報はあるけれど、届いていないということかもしれないと思いましたが、実際はどうでしょうか。 ・P43のQ19「福祉に関わるボランティア活動等をもっと盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。」という問いに62.9%の方が「活動に関する情報」が必要だと回答しております。P19のQ12「あなたがお住まいの地域の暮らしやすさ（満足度）はいかがですか。」の質問に対して「わからない」の回答のうち、「③地域の福祉・ボランティア活動」が38.8%であることと合わせると、活動に関する情報を届ける機会が必要だと考えます。	
F 委員	交通の不便さが各校区共通の困りごとです。私も今は歩けるから良いが、この先どうなるかと不安になることもあります。買い物については、この先開店したとしても、便利な交通手段がない所に住む人は利用しにくく、不公平感を覚えると思います。低料金で乗れる市内循環バスを走らせてほしいです。	現在中間市では、坂道が多く商店もない地区からの要望を受けて青空市場の開催や、安否確認を必要とする65歳以上の高齢者のみの世帯で、かつ食事の確保が困難である方を対象とした配食サービスを実施しています。更には他の委員からの意見
G 委員	地域の悩みは地域で少しでも解決できたらと思います。また買い物難民が増えています。店が多くても高齢者が多いことから、利用者は今一です。 また、校区まちづくり協議会で実践した防災訓練を無駄にしないよう維持していきたいと思います。	にもありましたがイオンによる移動販売も検討されているようです。ただ、公共交通につきましては、今後検討すべき課題と考えます。関係課である都市計画課にも情報提供いたします。 また、校区まちづくり協議会や自治会が実施している防災訓練にたくさんの人が参加していただき、実際に災害が発生した際に滞りなく避難できるようになればと思います。

委員名	ご意見・ご質問	回 答
G 委員		関係課である安全安心まちづくり課にも情報提供いたします。
H 委員	職員の市民に対する言葉遣いが所々に記載されていますが、職員の多くの方々はそうではないと思っています。信頼される市民対応で今後も頑張ってください。	ありがとうございます。信頼される市民対応を行うことを、職員一人一人が心掛け、今後とも実施する必要があると思います。

イ 計画見直しのための事業所等ヒアリング調査について 【資料3】
(ご意見・ご質問)

委員名	ご意見・ご質問	回 答
A 委員	①市内の社会福祉法人（施設・事業所）は定款で規定している事業以外に、地域への公益的事業が求められていますので、積極的な活動に取り込むように働きかけ（市当局として）を望みます。 ②市内の各種団体への働きかけもお願いいたします。	①②市内の社会福祉法人の活動の取り組みにつきまして、地域での清掃活動や、祭りの開催、コミュニティカフェ等を実施しており、今後の活動としましては、遠賀・中間地区で構成される社会福祉法人で、災害時の移送支援等を実施する取り組みを検討していると、うかがっております。今後も、市内の社会福祉法人をはじめ、各種団体につきましても、地域に根差した取り組みができるように、情報共有し、働きかけを行いたいと思っております。
B 委員	先日、複数の商業施設ができ、買い物には大変便利になりましたが、高齢のため、そこまでの交通手段がなくタクシーを利用しているという現状をよく耳にします。太賀の急坂を、買い物袋を持って帰るには、体力的にも負担が大きいかかります。きめ細やかに走るコミュニティバスを考えていただきたいとの声を聞いています。	現在中間市では、坂道が多く商店もない地区からの要望を受けて青空市場の開催や、安否確認を必要とする 65 歳以上の高齢者のみの世帯で、かつ食事の確保が困難である方を対象とした配食サービスを実施しています。更には他の委員からの意見にもありましたがイオンによる移動販売も検討されているようです。ただ、公共交通につきましては、今後検討すべき課題と考えます。関係課である都市計画課にも情報提供いたします。
C 委員	恐らく、調査対象を選んだときは均等な数の事業分野だったのが、有効回収数で事業分野のバランスが偏ってしまったのだと思いますが、高齢者・介護分野の意見が多くなっています。また、Ⅱ 利用者を取り巻く環境について、病院や買い物等の交通不便さがあり、移動販売などのニーズがある。Ⅲ 地域団体等との連携についてでも「交通・買い物」が 45.9%となっており、資料 2 の P17 で男性が通院など外出の手伝いが、女性が買い物の手伝いができるかと回答している方が多いの	また、事業所の数も高齢者・介護に関連する事業所が多いことから、その分野の意見が多くなっております。事業所も含め各地域団体が地域の方に可能な支援を提供できるような環境づくり

委員名	ご意見・ご質問	回 答
C 委員	手伝いができると回答している方が多いので、マッチングできると良いのではと考えます。	を考えていく必要があると考えます。
D 委員	(1) 様々な意見の中で「社会資源」が少ない、「情報」が不十分など多く見られます。こうした課題を解決させるため、どのような取組をされてきたのか教えてください。 (2) 「社会資源」でいえば、上記の自由回答でも病院、とりわけ市立病院に対する意見が出されています。「地域包括ケアシステム」でも「医療・介護・住まい」の重要性は提起されています。中間市の医療体制についてどう考えられているのかを教えてください。(3) 「買い物」に関しては、中間市では市内 6 か所で青空市場を行っています。大いに評価するものですが、課題についてどのように考えますか。	(1) 介護保険課では生活支援体制整備事業で生活支援コーディネーターが市内の社会資源の抽出を行っております。今後デジタル化に向けて取り組みを進めます。 (2) 医療体制につきましては、医療法に基づき都道府県が、国の定める基本方針に則し地域の実情に応じて当該都道府県における医療提供体制の確保を図るために医療計画を策定しています。従いまして、本市の医療提供体制は、北九州医療圏域として位置づけられ、福岡県保健医療計画として策定されています。 (3) 青空市場につきましては、地域から開催希望の意見が出てくる必要があることや、地域住民が青空市場の会場に行くまでの交通手段が課題として挙げられます。
E 委員	自治会に新たに参加する人がおらず、退会者が続出しています。「自治会に入ってもメリットがない。」という意見をどのようにしていかうか悩んでいます。	核家族化、共働き、高齢化などにより自治会活動に参加する方が減ってきています。各自治会でも活動のあり方などを工夫するとともに加入率向上に向け、チラシ配布などをしております。しかし、現在のところ加入率向上には至っていない現状です。今後は、「自治会が行うべきこと」「市が行うべきこと」「自治会と市が協力して行うべきこと」に分けて課題を整理し、それぞれ

委員名	ご意見・ご質問	回 答
E 委員		れの役割を果たすことで、加入率の維持、向上を図って参ります。
F 委員	地域住民単位での参加、特に避難訓練等を実際に行動してみる必要があるのではないかと思います。(例えば歩けない方、一人暮らしの方等、地域住民の手伝いが必要かどうかなど。)	校区毎や自治会毎に、避難訓練は実施されており、各自治会では、避難の際に支援が必要な人を把握し、その人を支援する人を決めています。今後は避難訓練で支援も含めた避難を実施できたらと思います。関係課である安全安心まちづくり課にも情報提供いたします。
G 委員	資料 3 を見て、坂道が多くて買い物に困る、近くにお店が無い等の声が多々聴かれます。現在は青空市場が行われ、幾分かは助かっています。先日イオンの店長がイオンの社員を 4 名同してボランティアセンターに来られ、「イオンも移動販売を行いたいため、自治会連合会もご協力願えないでしょうか。」との相談があり、自治会としてもできる限り全面的に協力したいと考えております。	青空市場の開催や、移動販売事業の実施など、様々な方の協力により、地域課題が少しずつ解決できるような地域づくりができたかと考えます。イオン様が地域支援に加わって頂くことは大変心強く感じております。
H 委員	母がデイサービスを利用していますがヘルパーの方には大変感謝しています。認知症があり、喜怒哀楽が激しくてこずっていると思いますが、うまく対応していただけています。	貴重なご意見ありがとうございます。